

～萩尾神社の自然林で「樹木博士」を目指そう～

新型コロナウイルスの影響で繰り延べになっていた森林環境教育を、今年度初めて実施しました。実施先の萩尾分校は標高300m にあって平地より気温が2度ほど低めです。自然林が残る神社が隣接し、そこは地域に根差した「鎮守の森」として大切に守られ、地域の皆さんの拠り所です。奥には透き通った水の流れる川があって、涼しさを増幅してくれます。梅雨入り宣言が出た翌日とあって雨を心配しましたが、2年続きで実施する萩尾分校の子どもたちの成長ぶりに



に天気も味方してくれたのでしょうか、時折、陽射しが差し込むほどでした。

1年生から6年生まで7名が在籍し、何れも地元外から転入してきた家族で、自然豊かなこの地で伸び伸び育てたいとの願いが込められています。この日を一番待ちわびていたのは新1年生でした。自然や植物が大好

きと言うだけあって、岩の低い所にくっ付いた「マメツタ」を目ざとく見つけ「これ僕知ってる」と得意げに指さしてくれました。また「これはローリエ」と、その使い道まで説明してくれる女子もいました。「よく知ってるね!」と投げかけると「だって去年教えてくれたもん」と、嬉しい返事が返ってきました。「森の話」でも反応が良く、そのやり取りで時間が押してしまう場面も・・・。



今回、独自に設定した「コロナ対策チェックシート」を活用し、場面ごとに対応できているか、3蜜を避けた取り組みがなされているか、逐次、チェックすることを試みました。

が、五感を使う観察会にあっては、ついつい距離が縮まり、「ソーシャルディスタンス」と上級生から発せられる場面もありました。「ウィズコロナ」の新しい生活様式が求められる

中、環境教育の進め方も変わらざるを得ないのですが、自然の中に身を委ねる癒しの感覚は、何時にあっても変わらないものだ実感させられました。また、何より子供たちの笑顔に接することができたことが一番の喜びです。

スタッフ：後藤、常藤、諸石（報告：諸石）